

各水試発トピックス

令和6年度 道総研水産研究本部 成果発表会を開催しました

令和6年7月3日に札幌市かでの2・7において「令和6年度水産研究本部成果発表会」が開催されました。昨年に引き続きZoom配信を併用した本会では、会場参加211名、web参加最大同時接続82回線と多くの方にご参加いただきました。

本発表会は、各水産試験場にて得られた研究成果を広く公表し、水産業の発展に役立てるためのものです。本年度は、一般に認知されてはいるものの資源の利用実態や生態がよくわかっていないメガネカスベについての研究や、魚探を使って大型海藻類の種判別を行う技術開発、閉鎖循環型陸上養殖における飼育水中の硝酸態窒素を生分解樹脂PBSA材で除去する研究など、下記に示す14題の成果発表を行いました。

- ① “未詳資源” メガネカスベの研究
- ② 硬組織から分かるニシンの特性
- ③ カレニア・セリフォルミスの監視と予察に向けた新たな取り組みの紹介
- ④ スケトウダラはどこへ行った？
- ⑤ 流水下のホタテは揺れている？
- ⑥ コンブ養殖の存続をかけて
- ⑦ 音で藻場の種類を調べる
- ⑧ 死なないホタテを育てるには？
- ⑨ ホタテガイとホッコクアカエビ鮮度の『見える化』
- ⑩ 冷凍ナガコンブから昆布巻きを作りました
- ⑪ 漁業資源は増えている？減っている？

- ⑫ 強いサケをつくる！
- ⑬ 生分解樹脂PBSA材の脱窒効果
- ⑭ 網走湖ヤマトシジミの再生

ポスターセッションでは、口頭発表者全員が各ポスターを通じて研究内容をあらためて説明しました。口頭発表会場では聞きにくかった質問や関連する研究の話など、参加者と研究者が直接に意見交換をしました。また、久しぶりに顔を合わせる研究者同士の交流の場にもなりました。

本発表会が、地域の水産業の未来をより良いものにする助けとなることを願っています。



写真1 開会挨拶をする星野本部長

(井上 智 水産研究本部企画調整部)